2 将来設計(キャリアプラン)と準備について

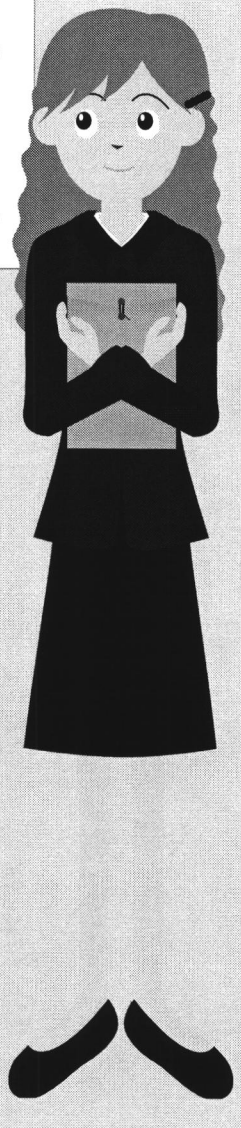
希望進路…… ⑯
民間企業への進路希望がポイントアップ、公務員は変化なし
「民間企業」希望 2009年度：41.7% → 2010年度：45.9%
「公 務 員」希望 2009年度：10.7% → 2010年度：11.1%

進路決定時期…… ⑰
ほとんどが高校生のころか大学に入ってから決定
中学生の頃から
全体：7.5%　一般入試：7.0%　付属校進学：10.9%

将来設計…… ⑱
将来の進路への不安と大学への期待
「やりたいことが見つからない」：22.7%（2009年度）→ 26.0%（2010年度）
「進路先が絞りきれない」：29.6%（2009年度）→ 32.0%（2010年度）

将来設計への準備…… ⑲
学業に励むことが将来設計へつながる
「学問・研究に励む」：53.8%（2009年度）→ 58.7%（2010年度）
「語学習得」：39.6%（2009年度）→ 43.8%（2010年度）

調査結果の要約と特徴…… ㉑



希望進路

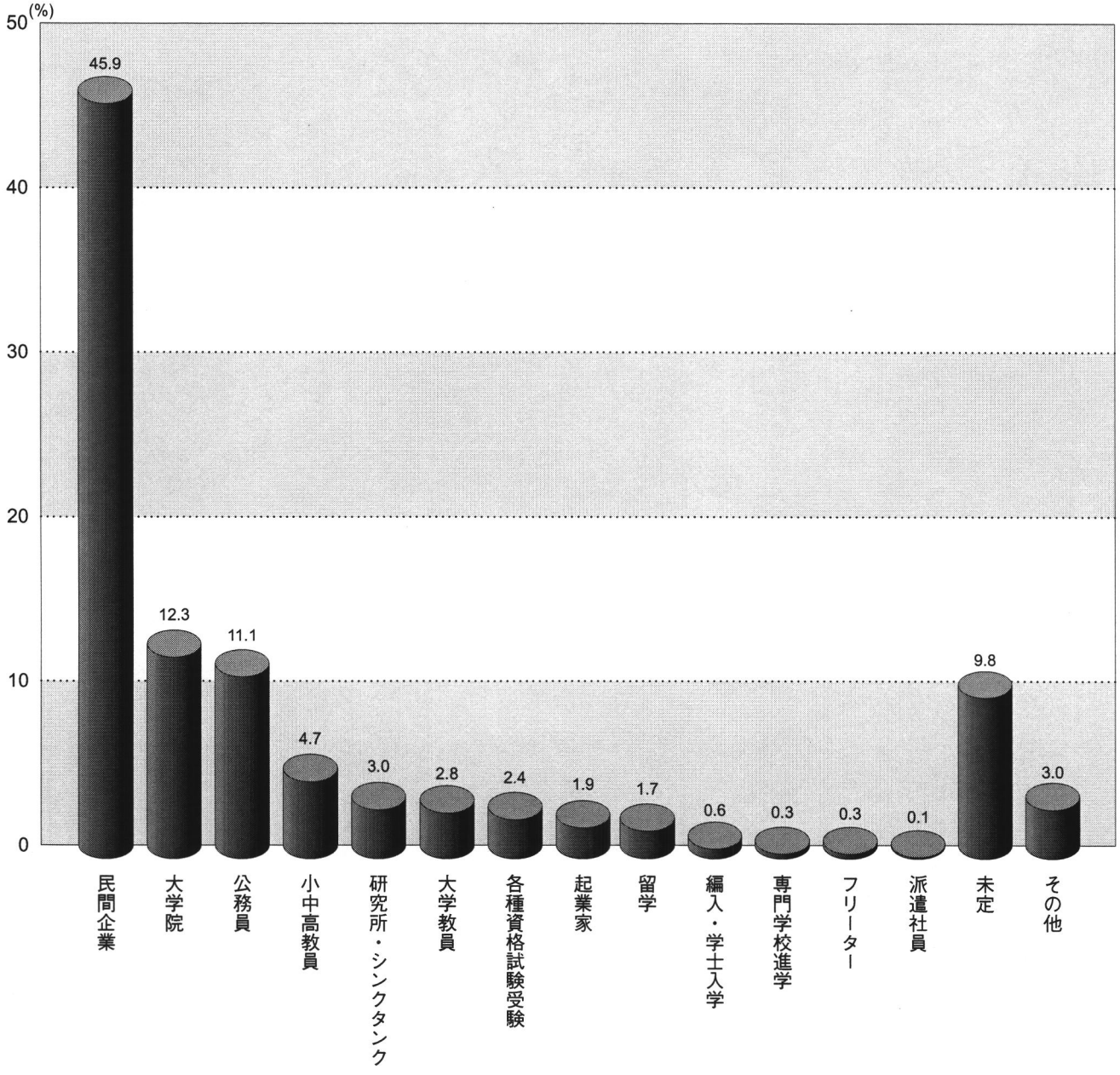
民間企業への進路希望がポイントアップ、公務員は変化なし

POINT

「民間企業」希望 2009年度：**41.7%** → 2010年度：**45.9%**
「公務員」希望 2009年度：**10.7%** → 2010年度：**11.1%**

昨年の調査結果では、卒業後の進路希望先として「公務員」への進路希望が増えましたが、今年度は「公務員」への希望は、昨年度とほぼ変わらず、「民間企業」進路希望のポイントが増えました。

学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？

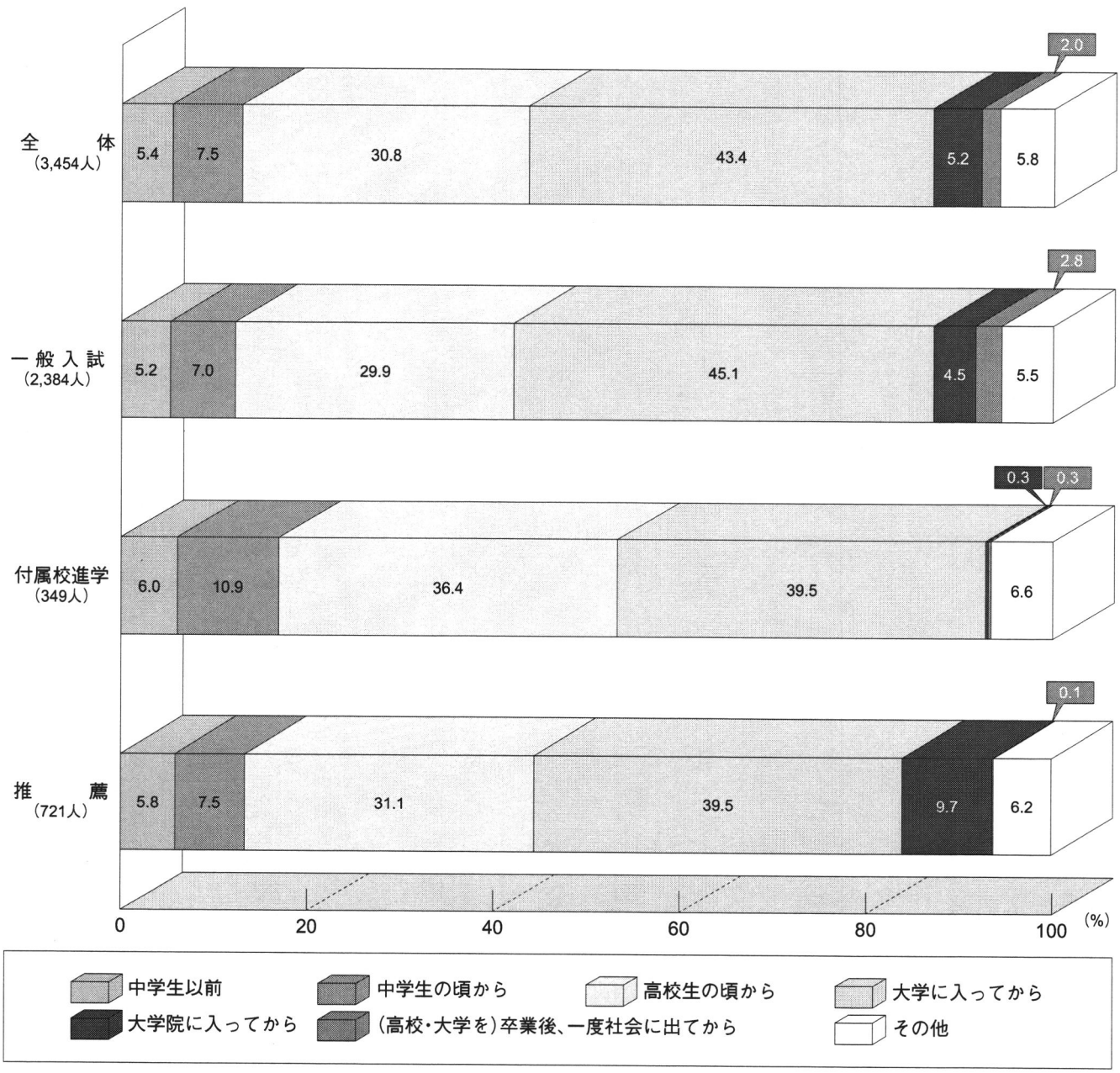


ほとんどが高校生のころか大学に入ってから決定

POINT 中学生の頃から
全体：**7.5%**　一般入試：**7.0%**　付属校進学：**10.9%**

進路の決定時期は、どの入学形態においても「大学に入ってから」、「高校生の頃から」との回答が多く、ほぼ同じ割合を占めています。しかし、「中学生の頃から」との回答は、「付属校進学」の属性において多く見受けられます。

進路を考え始めたのはいつくらいからですか？　入学形態別



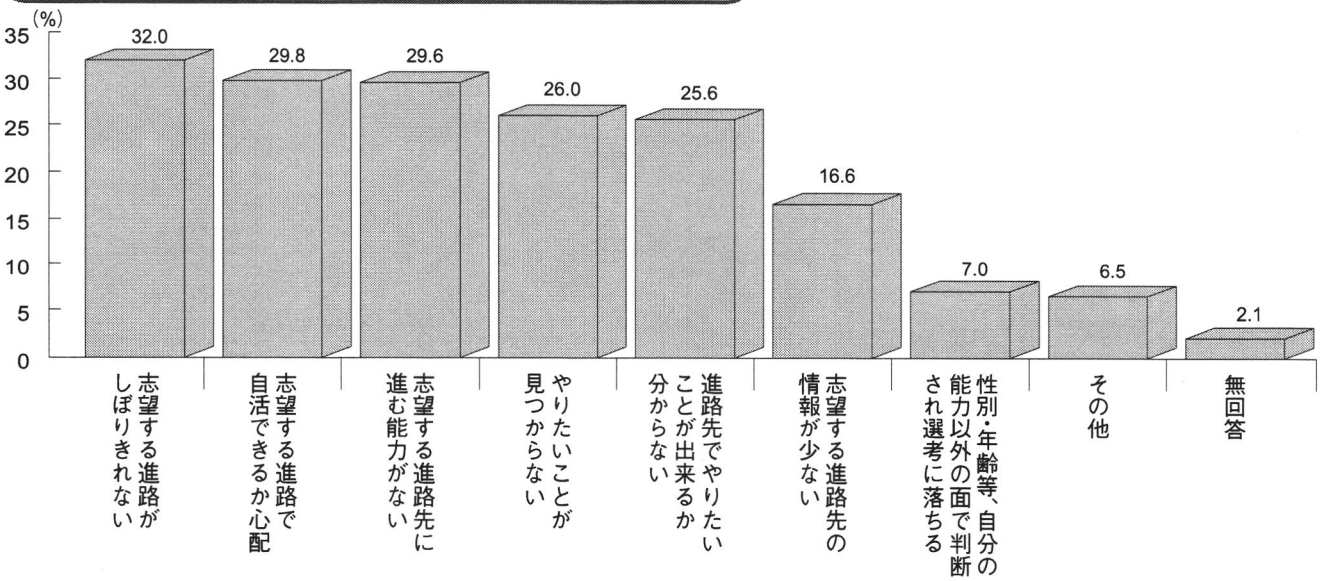
将来の進路への不安と大学への期待

POINT

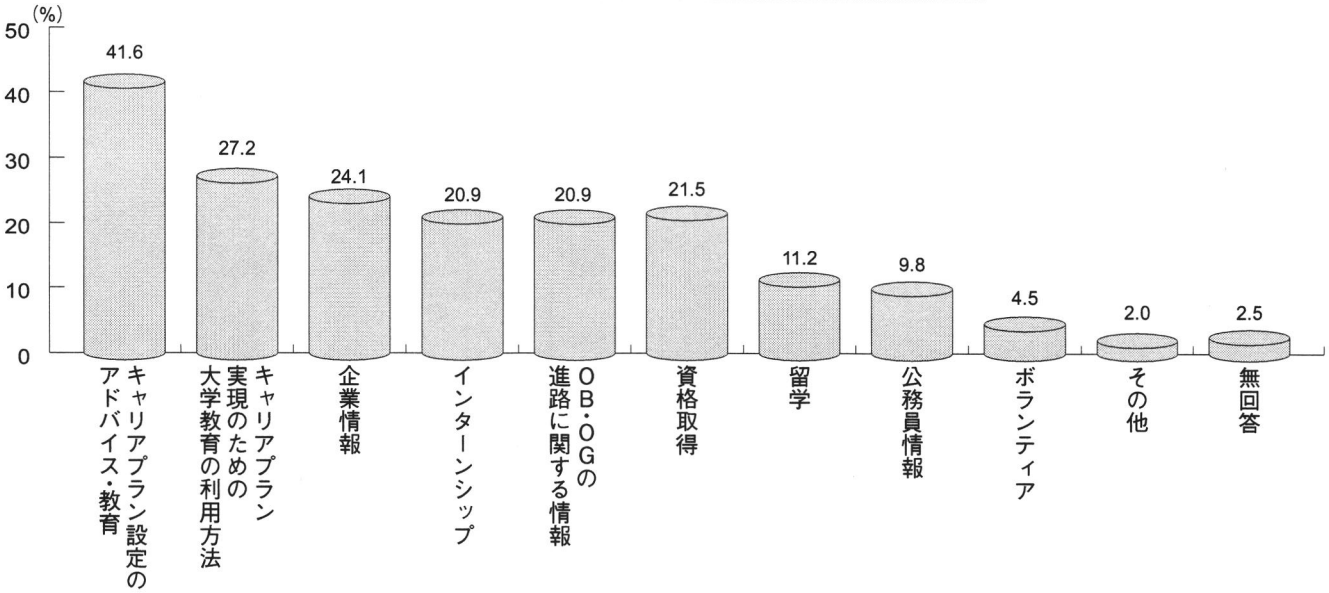
「やりたいことが見つからない」：**22.7%**（2009年度）→ **26.0%**（2010年度）
「進路先が絞りきれない」：**29.6%**（2009年度）→ **32.0%**（2010年度）

「やりたいことが見つからない」「進路先が絞りきれない」など、将来設計に不安を感じているとの回答が2009年度よりアップしました。また、将来設計について、「キャリアプラン設定のアドバイス・教育」「キャリアプラン実現のための大学教育の利用方法」などについて、さらなる大学への情報提供を求めているのが見られました。

将来の進路についてどのようなことが不安になりますか？



将来設計についてどのような情報・サービスを大学から提供してほしいですか？



将来設計への準備

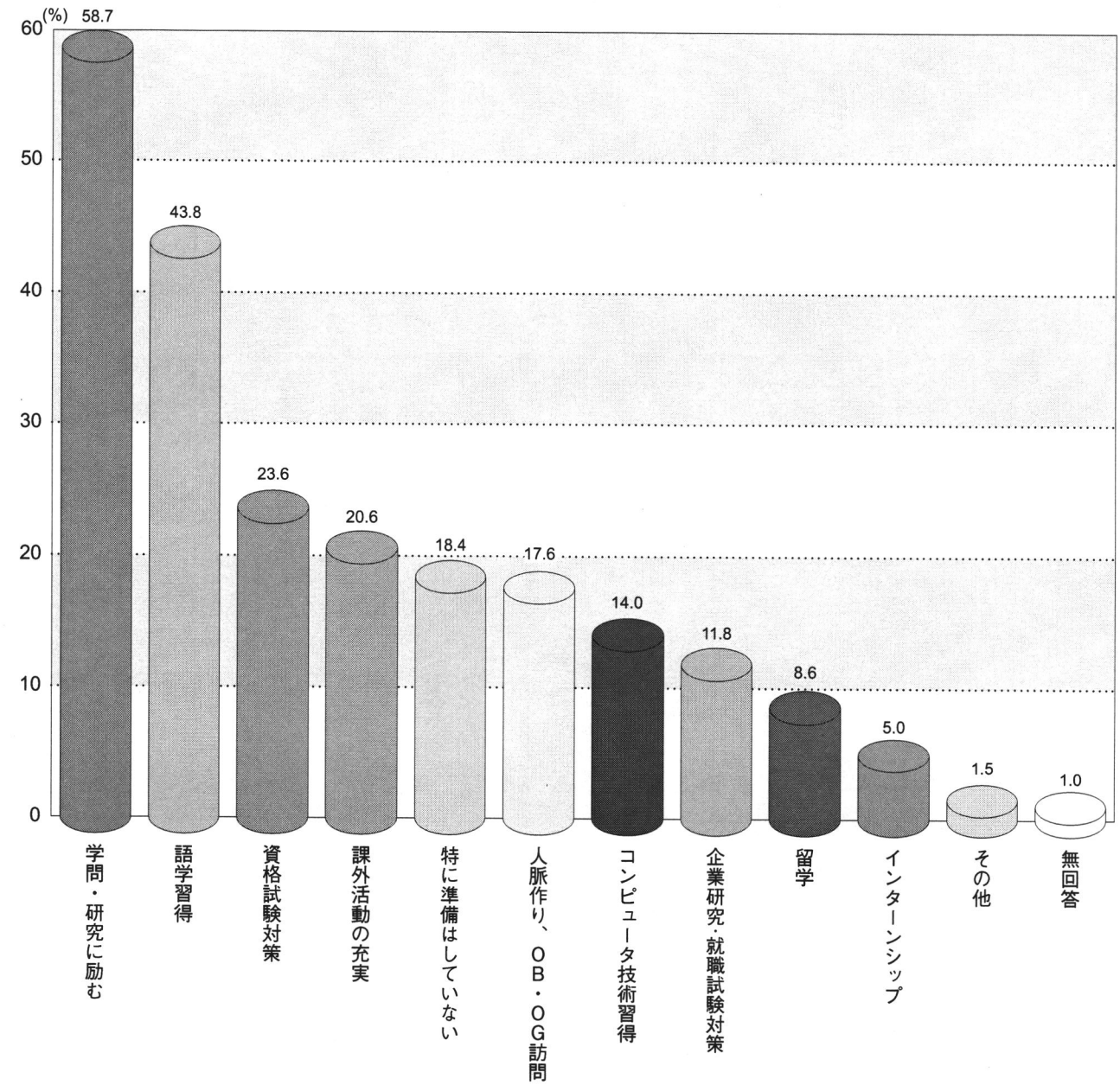
学業に励むことが将来設計へつながる

POINT

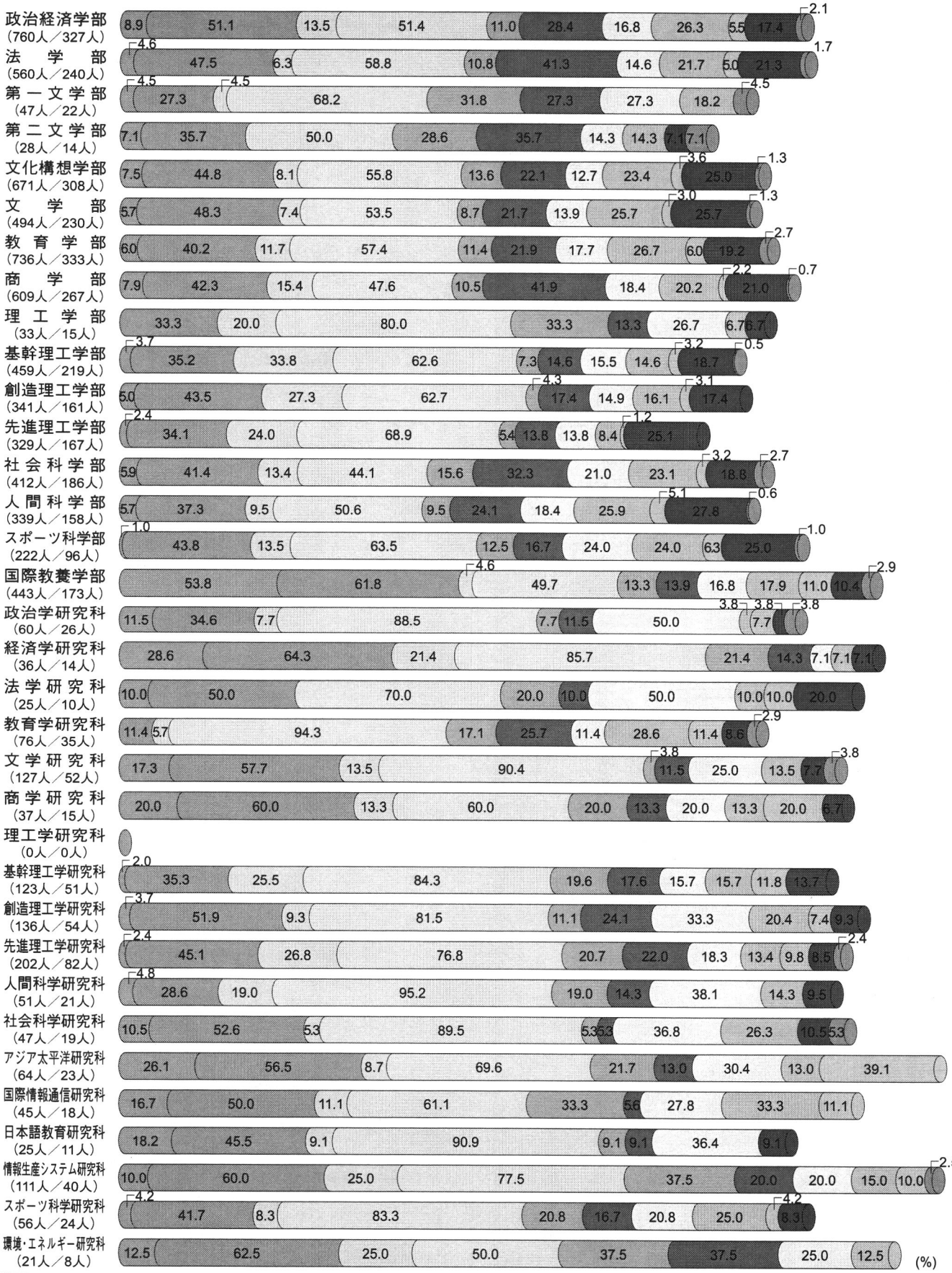
「学問・研究に励む」：**53.8%**（2009年度）→ **58.7%**（2010年度）
「語学習得」：**39.6%**（2009年度）→ **43.8%**（2010年度）

「学問・研究に励む」との回答は2009年度に引き続き上昇傾向が見られた。学部・研究科別に見ても「学問・研究に励む」とのポイントが高かった。そのほか、「語学習得」の43.8%、「資格試験対策」の23.6%などの準備を将来に向け考えていることが分かりました。

将来設計に向けて、現在どのような準備をしていますか？



将来設計に向けて、現在どのような準備をしていますか？［主なものを３つまで選択］ 所属箇所別



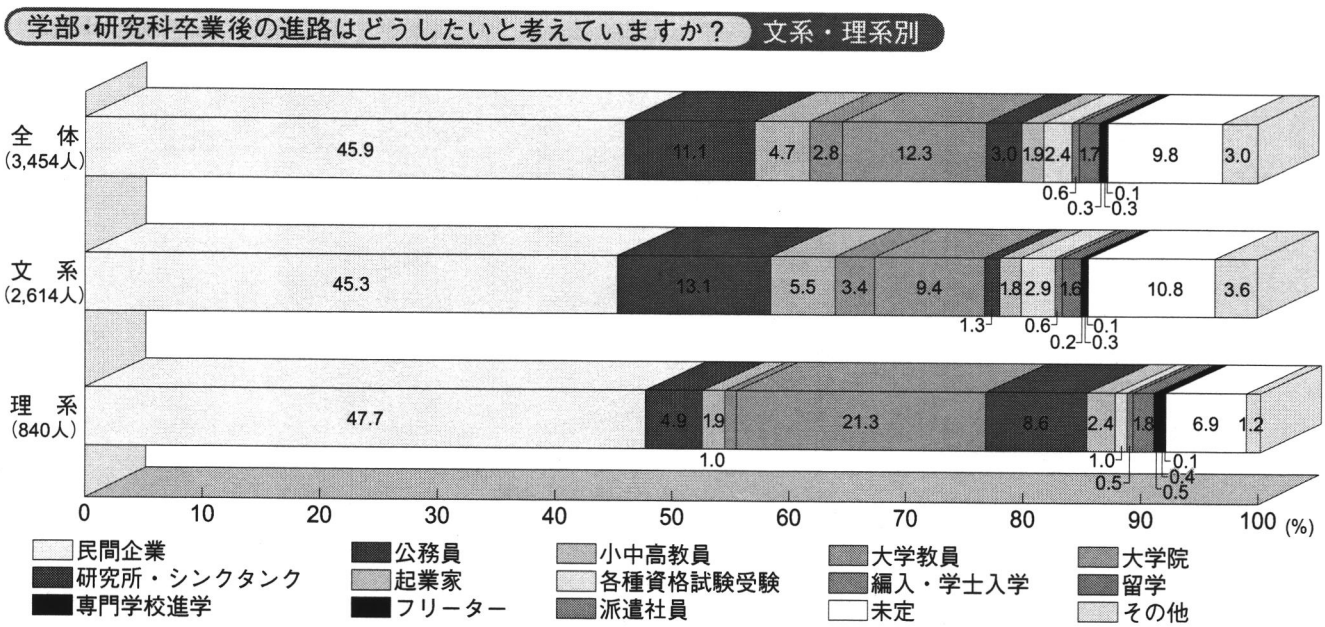
左は複数回答の延べ数／右は実際の回答者数

第2章 調査結果の要約と特徴

卒業後の進路希望先として、「民間企業」を希望する学生の比率は45.9%（学部：46.3%, 研究科：43.1%）となり、昨年度の41.7%に比べて4ポイント程度増えました。ただし、一昨年度は46.3%であり、ここ数年間の推移をみた場合、全体としてさほど大きな変化は見られません。一方、「公務員」を志望する学生の比率は11.1%（学部：11.9%、研究科：6.6%）となっており、昨年度の10.7%と比べて大きな変化は見られませんが、一昨年度は7.6%であったことから、昨年度に増えた傾向が今年も継続しています。また、「大学院への進学」を希望する学生の比率は12.3%（学部: 13.6%、研究科で：5.3%）であり、昨年度の15.2%（学部：16.2%、研究科：6.9%）に比べると、学部学生の比率が3ポイント近く減少しています。そのほかの進路希望先は、ほぼ例年通りの比率を示しましたが、「留学」を希望する比率が、過去２年間は1.1%であったのに対して、今年度は1.7%と増える傾向が見られました。

一方、進路希望先を文系・理系別で見てみると、「民間企業」希望の比率は文系で45.3%、理系で47.7%とほとんど変わらず、「公務員」希望の比率は文系で13.1%、理系で4.9%と文系が学生が多いことが分かります。また、「大学院への進学」の比率は、文系が9.4%で理系が21.3%であり、理系の学生の比率が高いことは従来と変わりませんが、昨年度の理系の比率は28.8%であり、大きくその比率が減っています。

このような「公務員」希望の比率の高止まり傾向や「大学院への進学」希望の比率の減少傾向は、学部・研究科と共通しており、昨今の景気の不透明感や厳しい就職状況とともに学生の安定志向や地元志向がその背景にあるものと考えられます。

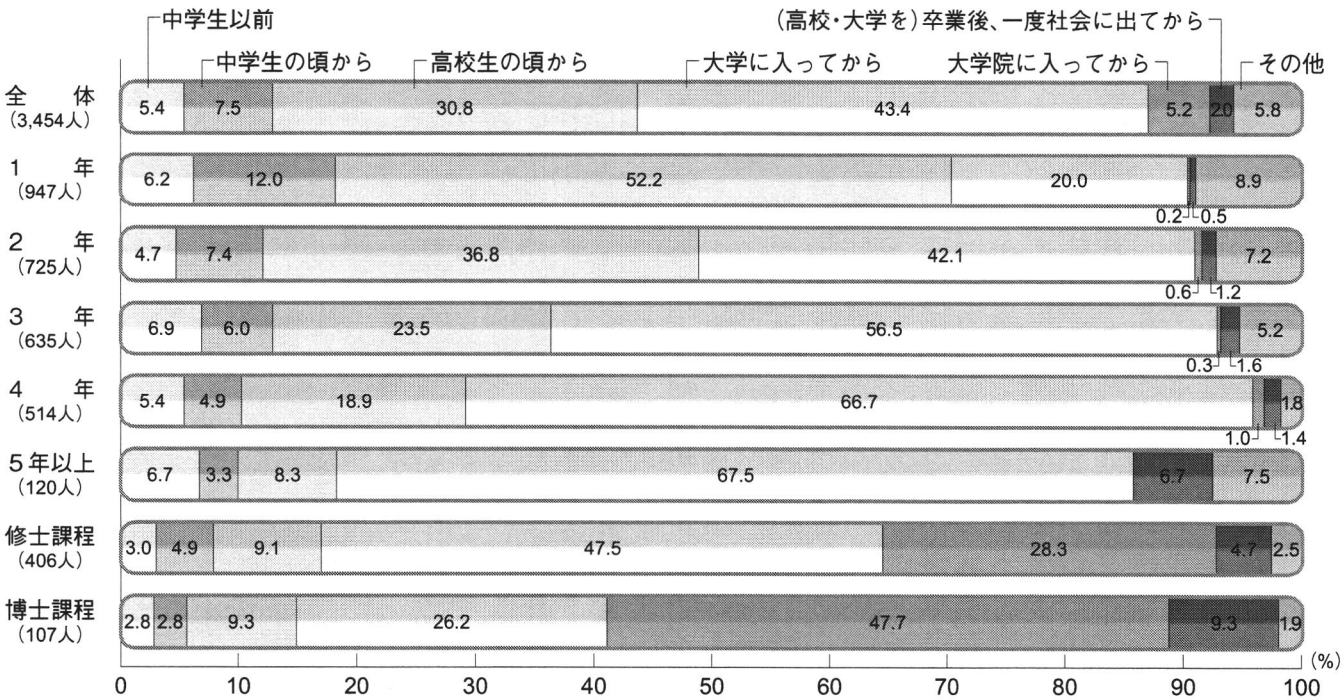


学生が進路を決定した時期は、「高校生の頃から」と答えた比率が30.8%、「大学に入ってから」と答えた比率が43.4%で全体の7割以上を占め、また両者はほぼ同じ割合になっています。この結果はここ数年間の調査結果と同じ傾向を示しており、将来の進路を高校生の頃に決める学生と大学に入ってから決める学生に大きく分かれることを示しています。将来の進路を決定する時期の傾向は、入試形態別にみてもさほど大きな違いはありませんが、「付属校入試」で入学する学生は、「一般入試」や「推薦」で入学する学生に比べて、「中学の頃から」や「高校生の頃から」と回答する割合が若干多くなっています。この理由としては、「付属校入試」の学生の場合、大学受験がないた

めに将来の進路を考える時間的な余裕がある、あるいは将来の進路を決めて高校受験先を決定しているなどが考えられます。

学年別に希望進路先の変化を見てみると、学年が進むにつれて「民間企業」を希望する学生の比率が40.1%（1年生）から55.3%（4年生）と増える傾向があるのに対して、「公務員」希望の学生の比率は、2年生で14.2%と最も多く、学年が上がるにつれて減少して4年生で8.2%となっています。また、「小中学校教員」を希望する学生の比率は3年生で5.5%と最も高く、4年生になると逆に3.3%と最も少なくなる。「大学院進学」を希望する学生の比率は、学年が上がるにつれて増えていく傾向にあります。このように、進路先を具体的に決定する時期が近づくにつれて、好むと好まざるに関わらず進路先が変化している様子が見てとれます。

その進路を考え始めたのはいつくらいからですか？ 学年別



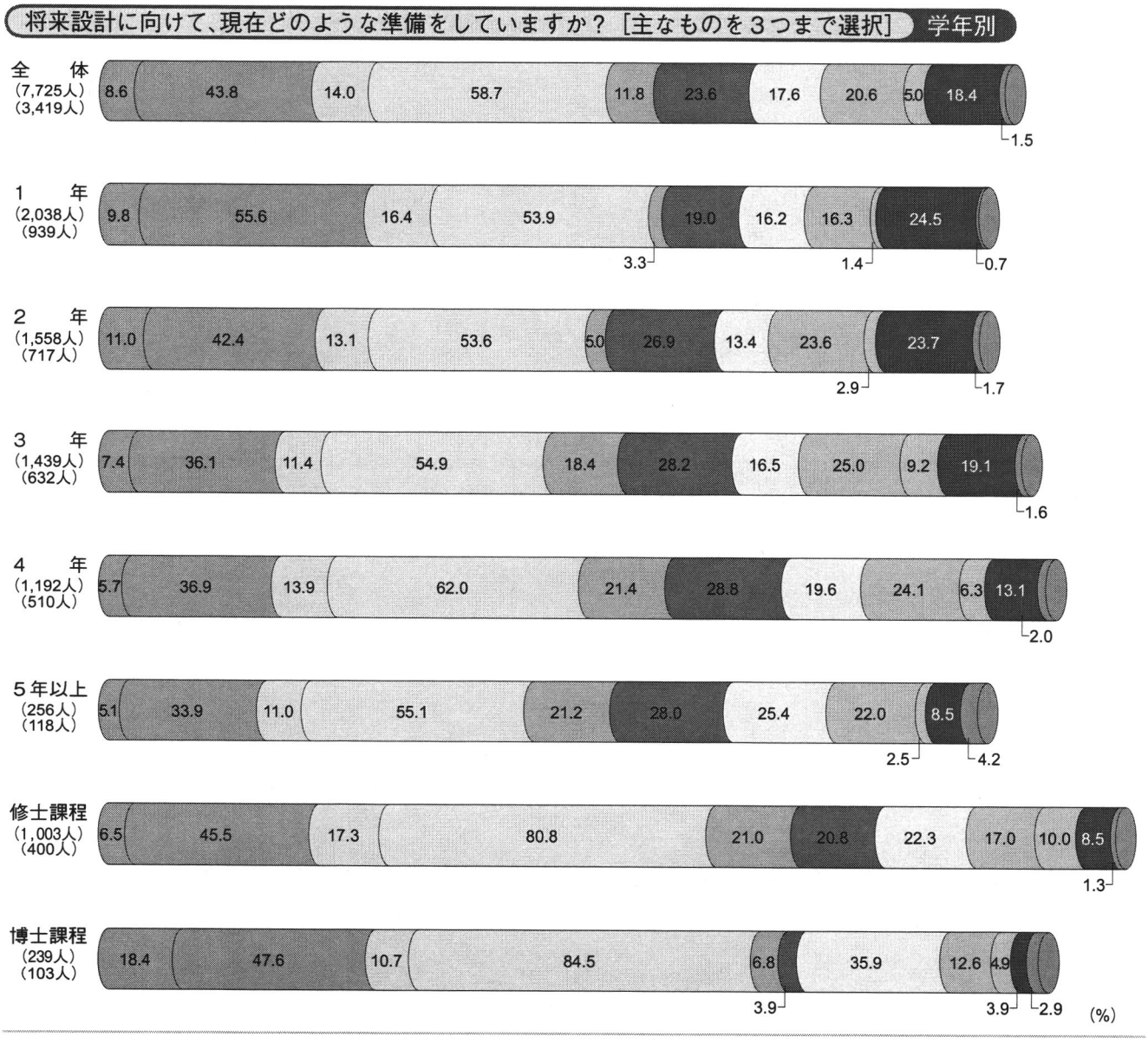
将来の進路について不安になる要因として、学生の26.0%が「やりたいことが見つからない」、32.0%が「進路先が絞りきれない」をあげており、6割近くの学生が将来の進路を決めかねている状況が見てとれます。この結果を昨年度と比べると、「やりたいことが見つからない」が3.3ポイント、「進路先が絞りきれない」が2.4ポイント増えており、将来設計に不安を感じているとの回答がアップしています。また、学生の29.6%が「志望する進路先に進む能力がない」、25.6%が「進路先でやりたいことが出来るか分からない」をあげており、6割近くの学生が希望する進路と現実とのギャップに悩んでいる状況が見てとれます。さらに、29.8%が「志望する進路で自活できるか心配」をあげており、経済的な不安も大きな要因になっています。

学年別に見てみると、4年生になると「やりたいことが見つからない」、「進路先が絞りきれない」の不安要因は10ポイント以上減少するのに対して、逆に「志望する進路で自活できるか心配」の比率が3年生までと比べて10ポイント以上増えており、より現実的なことへの不安へ変化しているのが見受けられます。

将来の進路への不安に対して大学に期待することとして、学生の41.6%が「キャリアプラン設定のアドバイス・教育」、27.2%が「キャリアプラン実現のための大学教育の利用方法」、20.9%が「インターンシップ」、21.5%が「資格取得」、24.1%が「企業情報」を挙げており、学生が将来設計に向けてさらなる大学への情報提供を求めていることが分かります。

将来設計に向けての準備として、学生の58.7%が「学問・研究に励む」、43.8%が「語学習得」と答えており大きな割合を占めています。この2つの項目は、昨年度の比べてそれぞれ5ポイント程度の上昇がみられました。また、学部・研究科別に見ても「学問・研究に励む」、「語学習得」、「コンピュータ技術習得」のポイントはいずれも高く、将来設計に向けた準備として学業をはじめとして語学やコンピュータ技術などのスキルアップを第一に考えている学生の意識が見てとれます。また、これらのスキルアップと合わせて、「企業研究・就職試験対策」や「資格試験対策」、「人脈作り、OB・OG訪問」など、進路選択に向けた具体的な準備を行っていることが分かります。

学年別に見ると、「学問・研究に励む」と「語学習得」は学年によらず高い比率を示す。また、「企業研究・就職試験対策」、「資格試験対策」、「人脈作り、OB・OG訪問」、「インターンシップ」と答えた学生は3年生以上で多くなっており、就職に向けた準備が3年生から始まること、就職活動に入る前に「インターンシップ」を体験しておきたいと思っていること、また就職を目指す学生にとって「人脈作り」が重要であるとの意識が見えてきます。



上段は複数回答の延べ数、下段は実際の回答者数

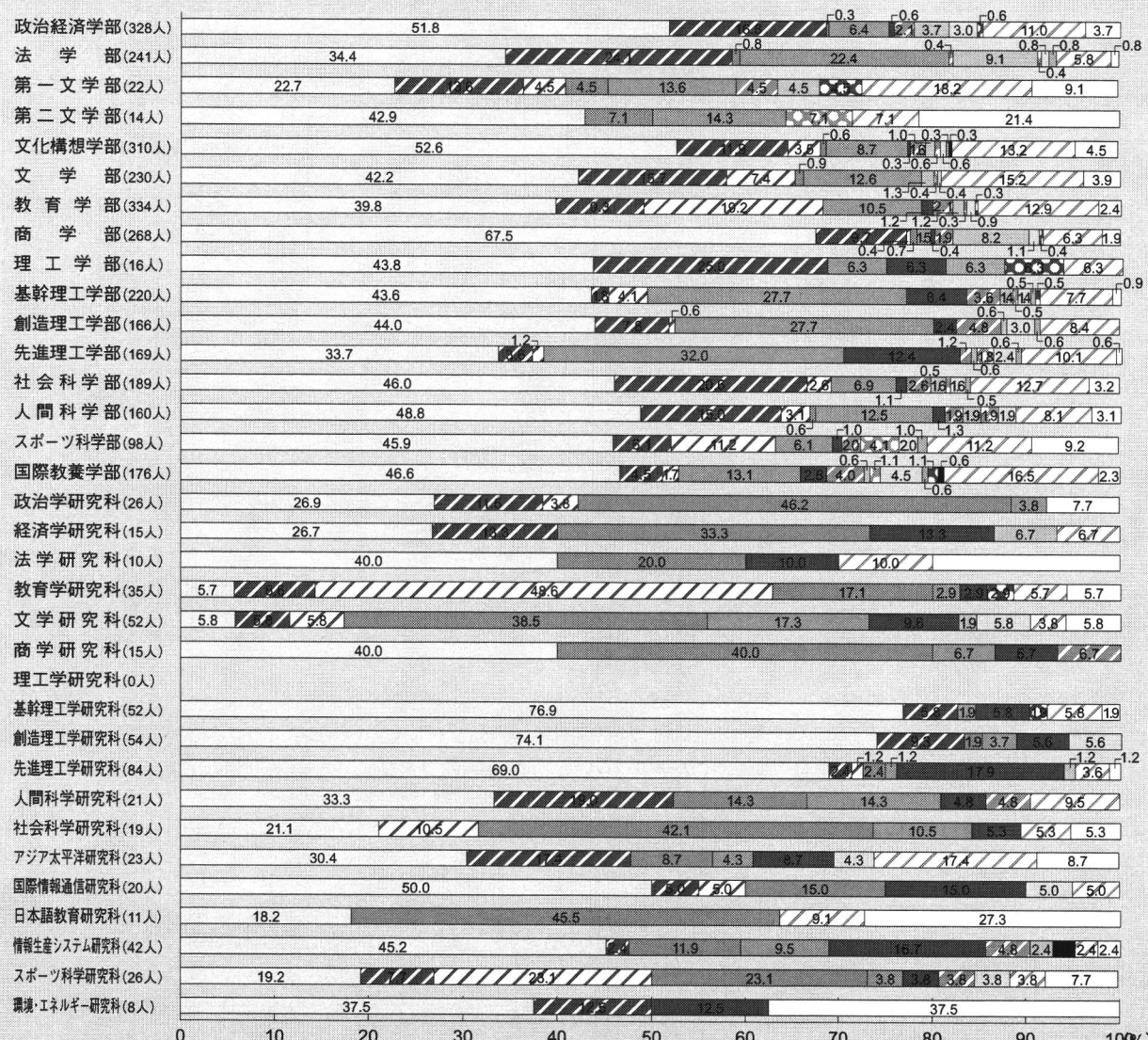
コラム

キャリアセンターを利用しよう！

キャリアセンターは、就職に対する支援のみでなく、社会生活の中において自分で考え、行動できるキャリア形成も支援します。皆さんも低学年のうちから積極的にキャリアセンターを利用してください。

卒業後の進路希望先について、学部・研究科別に進路希望を見てみると、多くの学部・研究科で「民間企業」を希望する学生が大半を占めています。しかしながら、学部別に見てみても、法学部では「民間企業」の割合が34.4%にとどまるのに対し「公務員」24.1%、「大学院」22.4%となるなど専攻別の特色が伺えます。大学院の進路希望内訳を見てみると基幹理工学研究科など理工系研究科においては「民間企業」進路先が70.0%を超えるなど、技術者志望の学生にとっては大学院がキャリアパスの一つに位置付けられていることが分かります。

学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？ 所属箇所別



■キャリアセンター
戸山キャンパス学生会館３Ｆ（30号館）
【URL】http://www.waseda.jp/career/